

「問題と解説」

4 ♪

問題：日本語をアルカに訳す問題です。下に解答と解説があります。

- 1：行った
- 2：私は家にいる
- 3：彼は妹がいる
- 4：赤いリンゴ
- 5：4つのみかん
- 6：3番目のドア
- 7：100匹の大きな牛
- 8：10番目の大きい家
- 9：強く叩く
- 10：背の高い男が痩せた女を優しく撫でた
- 11：君、今日は可愛いね
- 12：彼は私を愛してくれている
- 13：私は豚肉と鶏肉が好きだ
- 14：彼は野菜も肉も好きじゃない
- 15：私は彼にお金をあげた
- 16：私は公園のベンチで座っていた
- 17：私は昨日、彼と一緒に包丁で固いカボチャを切った
- 18：私は日本の出身です
- 19：明日が晴れでないと行かない (olを使う)
- 20：あなたを好きなのだ、私は (倒置させる)
- 21：ミールという少女を知っていますか
- 22：私が彼にありがとうと言ったことは良いことだった (lceを使う)
- 23：22 を-leを使って言い換える
- 24：あなたは彼に私がどこにいるのか教えましたか？
- 25：門前の白い猫がひょいと塀に跳んだ
- 26：あの先生は父親が医者である少女を生徒に持っている

- 27：私はブドウより桃のほうが食べたい
- 28：もっと大きいイチゴがほしい
- 29：アルミヴァとははヴァステで悪魔たちと戦った12人の神のことだ
- 30：私たちがしなければならぬ全てのことは、彼に真実を告げることだ
- 31：あなたがこの本を置いた机はどこにありますか？
- 32：僕のところへ来たときと同じ状況だよ
- 33：じゃあ貴方が店から客の家までピザを運んでいるの？（e-を使う）
- 34：けど君の言葉は僕が知らないものだしなあ（ecを使う）
- 35：電気をつける
- 36：PCの電源入れて
- 37：朝ごはんにしましょう
- 38：またやったら許さないから！
- 39：私の娘になんてことするのよ！
- 40：紫苑、あなたにアティーリは読ませたわよね
- 41：じゃあ彼はどうして殺されたの？
- 42：あの母親は戦争で息子に死なれたんだそうだ
- 43：どうかしたの？
- 44：いつ日本に来たの？
- 45：窓を割ったのは私じゃないよ
- 46：私はミールです。どうぞよろしく
- 47：ああ、死ぬ前に一度で良いから娘の顔を見てみたかった
- 48：窓を開けようか？——いや、結構
- 49：もっと勉強したら？怠けちゃダメだよ
- 50：この道を走ってもいいですか？
- 51：あのときは大雨のせいで公園を歩けなかったんだ
- 52：果物が嫌いな人もいる
- 53：誰にも秘密はばらしてないよ
- 54：部屋には誰もいなかった

解答と解説

1 : $\eta e\lambda-$: 動詞には動詞媒介の λ をつける。過去は-

2 : $-\Lambda \cup-\lambda c \mu-$: $\cup-\lambda e$ は $\omega\Lambda$ に場所を取る

3 : $I- -V\lambda e e/c$: $-V\lambda e$ は所有を表わす。 $e/c \cup-\lambda e -\Lambda$ だと「妹が私のところに居る」という意味になる

4 : $\lambda c c \eta h-\mu$: 形容詞は後置。リンゴは赤。赤ワインも赤だが白ワインは緑。紅茶は茶色

5 : $V- I c \cup c \eta$: 基数は前置

6 : $\omega \lambda c V c$: 序数は後置

7 : $100[\eta\omega\lambda\omega] e-\eta c-\cup$: 4, 5から

8 : $\mu- c-\cup \eta\omega\lambda-$: 4, 6から

9 : $e-\lambda\lambda e -V\Lambda$: 副詞は動詞に後置

10 : $c\Lambda \cup\omega\mu \cup\omega\Lambda c\lambda- \Lambda-c <-\Lambda S c \cup$: 副詞は切り離して $\mu-$ し格にしても良い。 $c\Lambda \cup\omega\mu \cup\omega\Lambda c\lambda- <-\Lambda S c \cup \mu-\cup \Lambda-c$

11 : $<c \cup, c/c c/ -\Lambda \eta$: $<c \cup$ が純詞になっているので「今日は」というニュアンスになる。しかも繫辞が現在なので、いつもは違うというニュアンスがある。ツंकは随意で付ける。かなり皮肉的

12 : $I- c/c-\lambda\lambda e -\Lambda \cup-\Lambda$: ころころ愛情が変らない前提なので時制は通時。文末に純詞の $\cup-\Lambda$ をつけて命題への好意を示す

13 : $-\Lambda \cup-\Lambda\lambda e \omega 0c4e\eta/\eta a/c\omega4e\eta$: I は ω と読む。接続詞で、連言を表わす

14 : $I- \cup-\Lambda\lambda a \cup/c\eta cZ4e\eta$: $\cup-\Lambda\lambda a$ は $\cup-\Lambda\lambda e \omega \cup$ でもいい。肯定すると接続詞は cZ から ω に変わる

15 : $-\Lambda <c/c\lambda- \lambda cl -I I-$: 授受動詞は「 a は $\omega\Lambda$ を $-I$ に $[c]$ から」~するという格組を持つ。与格は $-I$

16 : $-\Lambda \cup \eta c\Lambda\lambda-\Lambda (\omega\mu) -I <\omega\Lambda \cup \eta c \eta-\cup\omega \eta I$: 再帰代詞の $\omega\mu$ は省略できる。姿勢動詞はこのように再帰型を取る

17 : $-\Lambda \eta c/\lambda- \lambda \omega \eta I h\omega\Lambda \eta\omega\Lambda e/c/\eta c/\omega \eta I- c \lambda <-\cup$: 具格、随伴格、時格を使っている

18 : $-\Lambda e/c c/ \eta-\mu \lambda$: $\omega\Lambda$ では $I-\Lambda$ (人間) などが省略されていて、後は必要な c 格しかない

19 : $-\Lambda \eta e\lambda\omega ol h\omega c <\omega \cup c/c \omega \eta \eta$: $ol h\omega c$ で「~のときのみ」というたったひとつの条件を指す。 ω 格の繫辞は主節と一致しているので現在形

20 : $\omega\Lambda c/c I-<\lambda e a/ -\Lambda$: 主格と対格の倒置。 $\omega\Lambda c/c a/ -\Lambda I-<\lambda e$ でも変らない

21 : $\text{C } \text{Jee} \text{e} \text{ <c-}\Lambda \text{ lel } \text{ >cc}\mu\delta$: 疑問文は δ をつけて尻上がりにするだけ。純詞の >c- を文末につけるとより明瞭に疑問文になる。同格の lel で少女=ミールという図式を作っている

22 : $\text{Cce } -\Lambda \text{ } \text{Jax- } \text{Jee}\mu\text{e } -\text{I } \text{I- } \text{Ca}\Lambda \text{ -C } -\text{o}$: 主格が長いので Cce , $\text{Ca}\Lambda$ で挟む

23 : $\text{Ca } -\text{C } -\text{o } -\text{le } -\Lambda \text{ } \text{Jaxc } \text{Jee}\mu\text{e } -\text{I } \text{I-}$: it 構文に当たる。主格が長いので $-\text{le}$ 格節を Ca が受けている。格詞節が主節の後に来ているので時制が主節との対照になっている

24 : $\text{C } \text{Jax- } -\text{I } \text{I- } \text{o}\Lambda \text{ -}\text{> } -\Lambda \text{ } \text{U-}\text{xc}\delta$: 対格のほうが長いので与格を先行させている。その結果、対格を示す $\text{o}\Lambda$ が省略されなくなる。また、間接疑問の $-\text{> } -\Lambda \text{ } \text{U-}\text{xc}$ という部分は $-\Lambda \text{ } \text{U-}\text{xc } -\text{>}$ でも構わない。前者の場合、 $-\text{>}$ は節の頭にきた純詞とみなされ、後者ではただの代詞とみなされる

25 : $\text{JecJ } \text{J-I } \text{J-e}\Lambda \text{ } \text{Y-I} \text{C } \text{OcCJx- } -\text{lh- } \text{ecl}$: 格詞に $\text{e}\Lambda$ を付けると接続詞になる。 $\text{J-e}\Lambda$ C で「 C の前の」という意味になる。 $-\text{lh-}$ は $-\text{l, h-}$ という2つの格詞が融合したもので、「上へ」。英語の *onto, upto* などと同じ感覚

26 : $\text{U-U-}\Lambda \text{ I- } -\text{V}\text{x} \text{e } \text{ <el-}\Lambda \text{ lel } \text{ <c-}\Lambda \text{ e } \text{I-e } \text{eC } \text{V-IJ}$: I- は代詞の形容詞的用法で、「あの先生」。 $-\text{V}\text{x} \text{e}$ は生徒を受け持つという意味での所有。 $\text{ <el-}\Lambda \text{ lel } \text{ <c-}\Lambda$ で学生が少女であることを指している。 $\text{ <c-}\Lambda$ が $\text{ <el-}\Lambda$ に対して補語の関係になっている。そして $\text{ <el-}\Lambda \text{ lel } \text{ <c-}\Lambda$ 全体に $\text{I-e } \text{eC } \text{V-IJ}$ (父が医者であるような) が掛かっている。尚、掛けているのは接続詞の e で、これが媒介になっている

27 : $-\Lambda \text{ } \text{U}\Lambda \text{xcl } \text{lc-c)} \text{ V-}\Lambda \text{ } \mu\text{e}\epsilon$: $\text{V-}\Lambda$ を数学の「 $>$ 」と捉えると分かりやすい。因みに $\mu\text{e}\epsilon \text{ V } \text{o}\Lambda \text{ lc-c)}$ としても文意は同じ

28 : $-\Lambda \text{ I-}\text{xc } \text{ >elc)} \text{ C-J } \text{V-o}$: V-o は C-J にかかる副詞。 $\text{C-J } \text{V-o}$ で *bigger* になる。構造的に言い換えれば *more big* に相当する

29 : $-\mu \text{ >cV- } \text{eC } \text{I/ } \text{ >c}\mu \text{ e}\Lambda \text{ V-Jx- } \text{lee}\text{>J } \text{c> } \text{V-JCe}$: ヴァステは神と悪魔の戦争。 c> 格で受けるが、 J- でも悪くない。 V-Jxe は敵を対格に取る。味方は c 格を取る。 $\text{e}\Lambda$ は主格の関係詞

30 : $\text{le } (\text{a}\Lambda) \text{ -}\Lambda \text{J } \text{Jox-}\text{< } \text{eC } \text{Jaxc } \text{ <co}[\text{U-}\Lambda] \text{ -I } \text{I-}$: $\text{a}\Lambda$ は対格関係詞。省略できる。 $\text{Jox-}\text{<}$ で「しなければならない」。 le は「全てのこと」で、ここでは先行詞になっている。主語が長いので $\text{Ca } \text{eC } \text{Jaxc } \text{ <co } -\text{I } \text{I- } -\text{le } \text{le } (\text{a}\Lambda) \text{ -}\Lambda \text{J } \text{Jox-}\text{<}$ としても良い

31 : $-\text{> } \text{ele}\Lambda \text{ -I-C } \text{C } \text{oVx- } \text{lec } \text{U-}\text{xc}\delta$: 対格の $-\text{>}$ を文頭に純詞として倒置させているので、対格は消失している。 $-\text{>}$ を元の位置に戻して $\text{U-}\text{xc } -\text{>}\delta$ にしても勿論良い。 $-\text{I-C}$ は与格関係詞で、元の節は $\text{C } \text{oVx- } \text{lec } -\text{I } \text{ele}\Lambda$ 。 $-\text{I-C}$ は *on which* などに当たる

32 : $\text{le } \text{c}\text{>c}\Lambda \text{ >c } \Lambda \text{o}\text{l } -\text{lc> } \text{C } \text{Jecx- } -\Lambda$: 難問。繫辞は現在影響相で、対格は >c 。これは「保

つ」という動詞の>c>eが作るoΛ-に当たり、「保たれたもの」という意味を持つ。つまりle c
c>cΛ >cは「現在までに全てのことが保たれている状態だ」という意味を持つ。ΛoΛは格詞
で相対する対象をさす。つまり「～と比べて」である。-lc>はc> c>-cと同意で、先行詞c>
を内包した関係詞である。-lc>自体が1語で先行詞+関係詞になっている。ΛoΛ -lc>で「～
のときと比べて」の意味になる。?e?は移動動詞で、対格には場所化した人も取れる

33 : JoΛ c e e e- ?c>e ?eh cl -ce -l ?- e c?>-Λδ : JoΛは純詞で「では」。e-も-lc>同
様、先行詞を含む関係詞。主格として使う。the man who,the thing which に当たり、「～
する人、もの」の意味。cl,-lが併記される場合、この順で並べる。-l,clの順は不自然。客は
c?>-Λで、「買う人」の意味。弁護士の顧客、乗客、習い事の生徒なども全てこれ。病人は
Vcl?oΛというが、c?>-Λともいえる。尚、生徒もふつうはkel-Λという

34 : c-l elΛ e c e e e ec -Λ Je?a -- : c-lは純詞で逆接。「あなたの言葉」が主格。ecはe-
と同じで、機能が対格なだけ。ecを使わないとc-l elΛ e c e e elΛ se aΛ -Λ Je?aとなり、
若干冗長になる。文末の--は詠嘆の純詞

35 : -?>e ?-> : 生動詞を使う。道具の機能を発揮させるときに使う

36 : ?- ?-c : -?>-lは多様するので?-という。c?>-lは?c。?cの音価はccと同じ

37 : 0- ?-V- : -?>-しも多様するので0-という。c?>-しは0c

38 : -Λ ?o?>oΛ c c ol c >e?c? : ?oΛは未来否定。>e?cは代動詞で「もう一度する」。文末
記号はクーノで、急下降調

39 : l-l- c c ?>c >co e -Λ? : l-l-は女言葉は非難口調を示す。これは女言葉なので-l-が普
通。荒くなると-d-になる。全て純詞扱い。?>cは「oΛに何をするのか」という疑問代動詞。
だがここでは本当に何をしているのか尋ねているのではなく、何をしているのか分かった
上で非難している。-l-が無く、代わりにδが付くと、純粋な疑問になる

40 : ?coΛ,-Λ Jo?>- c c?>c -ccclc Je?e : Je?eは文末の確認純詞。女言葉で、ふつうは
?o?を使う。Jo?>-は使役で、cから-ccclcまでが対格となる。対格自体が節になっていて、
使役の意味上の主語がcになっている。直訳すると「あなたがアティーリを読むことを私
は使役した。そうですね、紫苑？」

41 : JoΛ eJ l- Je?>- ?aδ : eJは疑問を表わす純詞。?aは主格と対格の能受を入れ替える
副詞。英語と違ってbe動詞はいらない。?aを加えてal,oΛを入れ替えるだけで受身ができる。
-Λ ?-Λ?e l-とl- ?-Λ?e ?a -Λは同じ

42 : l-o l- c>?>- >ce Je?>c ?a c> V-? ceΛ : c>?>-は被害を表わす間接受身動詞。節をoΛに

取る。戦争で死ぬ場合、V_oM_oでなくJe_eを使う。アルカの受動態に迷惑性はないので被害を示すには受動態だけでは不十分。c>は?でも良い。Ce_eΛは文末純詞で耳で聞いた推量を指す
43 : Ce -C Jo_ol (-I Ce) δ : e> Jo_ol- Ce -I Ceと同じで、「誰かが何をあなたに起こしたか」という意味。Ceを主語にした結果、繋辞が入り、Jo_olが動詞から名詞のoΛ-になって「生じたもの」という意味に変わる。Ce -C Jo_olは「何が生じたものであるのか」という意味。動詞は規則的に名詞になり、繋辞と結びついて受動的な意味を作る。to burn から it was burned を作るのと同じ理屈で、burned がアルカでは過去分詞ではなくoΛ-と呼ばれる。これをアルカにすると、<-c₂eからCa -C <-cを作るようなもので、ほぼ英語と同じシステム

44 : o> Ce Ce_oe₂- θ-M>δ : o>は時間を聞く純詞

45 : -Λ oJ lcl₂- (e>J) : oJは否定で、形容詞にも副詞にもなれる。ここでは主格に形容詞として掛かっている。「私でない人が窓を割った」が直訳。窓を割る場合はlcl₂eでも良いが、正しくlo_o-としても良い

46 : l-r>-,-Λ e_o >cc_o, eJ_ol : l-r>-は始めまして。eJ_olはよろしく。初対面だとこれが定型句。アセットは人数が少ないのでl-r>-は使う機会が少なく、その語源も元を辿れば「今度ハルマになりました」から来ている

47 : --,-Λ cl₂cl eel e >co M-J Jo cJ J- V_oM_o : M-Jは回数を表わす。cl₂は希望時相詞。cJは心理的な小ささを表わし、Joにかかっている。したがってM-J Jo cJで「1回でいいから」という意味。J-は「前」だが、時間的にも使える

48 : -Λ ho>>e_o (e>Jδ -Ce_oe : e_oは相手や自分に行為を提案する時相詞。Ce_oeは no thank youにあたる。Ce_o, Jee_oeが短縮されたもの

49 : Ce <el₂e_o V-oδ e_oo_o <-cΛ : V-oは副詞で、「勉強したら？」にかかり、「もっと」の意味を表わす。クーンがあるほうが控え目。e_oo_oは「～である」「～になる」という意味の繋辞に禁止の時相詞が付いたもので、「なってはいけない」。<-cΛは怠惰

50 : -Λ le<>c_o θoΛ Caδ : c_oは許可時相詞。θoΛ CaはθoΛ Jo-でも良いが、θoΛは場所と分かっているのでわざとらしく、ふつうは言わない

51 : -Λ lo<>a_o- Jo_ol >-Λ eJ_o (cΛ c> le : a_o-は過去不可能時相詞。>-Λは原因格。雨が強いことはcΛで形容する。「あのとき」はc> le

52 : V_o JoΛ₂e V-Λ_o : 「～な人もいる」の文ではV_oを使う

53 : -Λ Jo₂aΛ Ae_oC -I <- : aΛは否定影響相で、「言っていない」。<-は任意の誰か

54 : a_o l₂- eZ : a_oは零代詞で、「誰も～ない」とか「0人」の意味